

銀杏地蔵

いちよう

富士岡に乳房が垂れたような大イチョウがあります。その前に地蔵堂が建っており、このお地蔵さんは「銀杏地蔵」と呼ばれています。イチョウの木は、樹齢六百年以上といわれ、静岡県天然記念物にも指定されているほどの大木です。

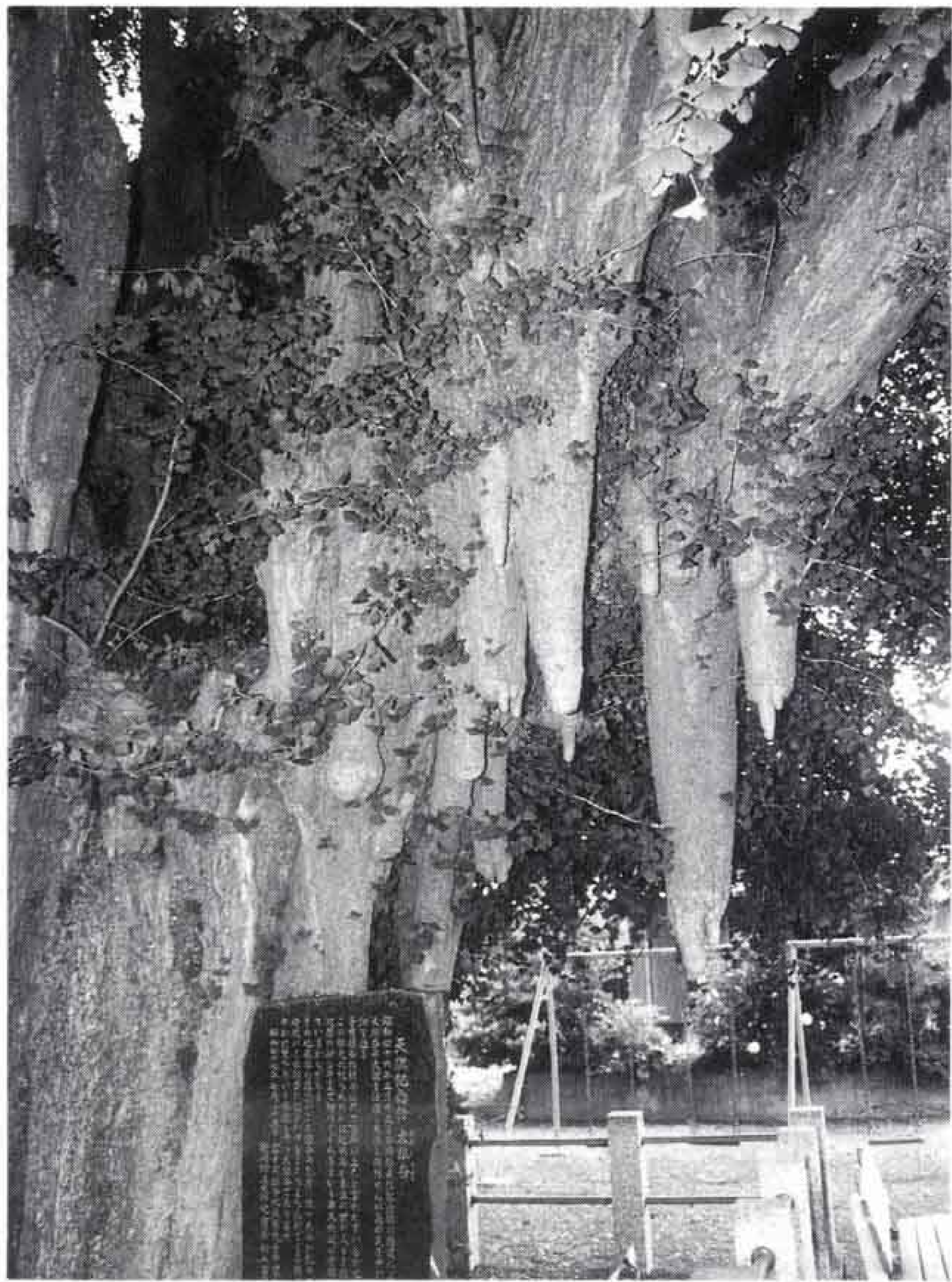
今回は、毎年七月二十三日に縁日を行っている銀杏地蔵のお話です。

昔、赤湊川に山津波があつて、一軒の民家が矢のように流されてきました。ところが、不思議なことに、富士岡の大イチョウのところまで来ると、民家は枝にからまり、ピタリとまりました。そして、流れてきた民家の屋根の上には、乳飲み子を抱えた母親がしがみついていたのです。

近所の人々が駆けつけて助け出しましたが、その一件以来、母親の乳房からは一滴の乳も出なくなってしまうました。そのため、子供は火がついたように泣き、母親はただ途方に暮れるだけでした。

そのとき、母親はイチョウの木の言い伝えを思い出しました。そして、言い伝えが本当であつてくれるように祈りながら、イチョウの木の乳房に針を刺してみました。するとどうでしょう、その晩から流れるように母親の乳が出るようになったのです。

やがて、その子供は成人し、子育てイチョウのご神体として、石のお地蔵さんをイチョウの木の根本に祭りしました。



このイチョウの木の乳房のようなものを、このあたりの人は「おっぱい」と呼んでいます。正しくは、「乳状下垂」といい、成長したイチョウの木などには、よく見られるそうです。でも、これほど大きなものは、珍しいのではないのでしょうか。

昔は、母乳が出ないということ、赤ん坊にとって命取りになるほどの大事なことでした。そんなことから、今でも針を刺せば白い液が出てくる、このありがたいイチョウの木を祭ったのでしよう。



吉永地区の
郷土史に詳しい
荻野武彦さん（富士岡）

こちら編集室

「なぜ私は今ここにいるのだろう？」このフレーズが心の中で何回繰り返されたことか…。それというのも、カメラやビデオ操作とか、文章を書くといった作業がどちらかと言えば苦手な私が、広報広聴課に配属されてしまったから

です。しかし、富士市職員としての第一歩が広報広聴課であったことを誇りに思える日がきっと来ると信じて、苦手克服に努力あるのみです。今はまだ、修行中の身ですが、達人目指して頑張ります。
(社会人1年生)

人口 234,017人
男 116,641人 女 117,376人
世帯 74,667世帯 (6月1日現在)
発行・編集 富士市総務部広報広聴課
静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

